

---

**魔法少女リリカルなのはViVid 銀河の風と蒼紅の修羅（仮）**

サーシェス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのはVivid 銀河の風と蒼紅の修羅（仮）

### 【Nコード】

N2697Y

### 【作者名】

サーシエス

### 【あらすじ】

銀河を愛する少年と二人の修羅の3人が主人公の作品です。笑いアリ涙アリときどき変態な青春物語を目指します!!!

だぶんですがよろしくお願いします!!!

## プロローグ（前書き）

題名が決まらない。

まあとりあえず仮でつけてみた

## プロローグ

### プロローグ

「ふう〜やっぱり星を見るのはいいな・・・」

とある丘に5〜6歳の少年が草原に寝そべりながら夜の空に無数に光る星を見ていた

「この綺麗な星を父さんと母さんと見たかったな・・・」

僕に親はいない。4歳の頃起きた交通事故で両親が死んでしまったから・・・

思い出した少年の瞳から涙が流れる。

「グス・・・あつ、流れ星！・・・もし本当に願いをかなえてくれるなら・・・」

……家族がほしい……

この願いはいつも思っている事、家族が居ないのはやっぱり一人は寂しいから……ん？

「あの流れ星もしかしてこっちに近づいて来てる？」

目の前に光る星の中の一つの光が徐々に大きくなってくる……つて避けないと不味くない？！

気づいた頃には遅く……

ゴチン！

「プギヤ」

見事なトマトケチャップにな……ならず何かと頭をぶつけました。

ぶつかった部分をさすりながら視線を戻すとそこには

「……白色と金色のちっちゃいドラゴンと……銀色の十字架……

・?  
「」

白と金色のちっちゃいドラゴンが銀の十字架を抱くように眠っていた

「……ここは？……私は消滅したはずでは……」

銀の十字架が声をあげた。もしかしてデバイスかな？……でも消滅したって何なんだろ……

「ここはミッドチルダの草丘だよ」

「あなたは？」

「僕はレオンハルト・ブリッツ。君の名前は？」

「私はリインフォース……と呼ばれていました」

祝福のエール……か。いい名前だな……

「でも呼ばれていたって……もしかしてさっきの消滅したって

「言ってたのと関係があるの？」

「はい。実は……」

それからリインフォースは昔を思い出すように自分の過去を話してくれた……

(ここは話すと長いから分からない人はwiki先生に頼るか、アニメを見てね!) by 作者

「そんな事が……嫌な事を聞いてごめん……」

「いえ。気にしないでください」

「気になったんだけど、今の君はデバイスなのかな？」

「そうなりますね。でも何故私はデバイスになって2匹の龍に抱かれているのでしょうか？」

「それは多分僕のせいなんだ。僕が家族が欲しいって願ったからだと思うんだ」

「家族が欲しいという事は・・・」

「うん。僕は一人だよ。」

4歳の頃に交通事故で死んだんだ・・・少しだけ君の主人に似てるのかもね」

「・・・・・・・・」

と僕は無理やり笑顔を作る。リインフォースは黙って聞いていた。

「それでよかったならなんだけど・・・僕の家族になってくれな  
いかな？」

「はい。もちろんです。」

え？即答？

「本当にいいの？・・・」

「はい。・・・でも名前は新しい物を付けてもらえませんか？」

「名前を？」

「リインフォースは前の主から頂いた名前です。ですが今の私はデバイスで主はあなた。ですので新たな名をつけてくれませんか？」

「別にいいけど……少し待ってて」

うーん名前か……できれば今の名前を取り入れたいんだよな・  
・僕の好きなものは宇宙・と言うか銀河かな？そしてこの二つをくつつけて……よし！これでいいかな？

「決まったよ。君の名前は銀河を包む祝福の風ギャラクティカ・リインでどうかな」

「私の前の名も使ってくれたんですね……すばらしい名前をありがとうございます。」

ではこれからよろしくお願いします。主レオン」

「こちらこそよろしくね、リイン」

リインフォース改めギャラクティカ・リインが僕の家族の一員になった

「くきゅ〜」

「くうん〜」

すると2匹のちっちゃいドラゴンが目を覚ました。・・金色の方から犬のような鳴き声が聞こえたが気にしないことにした。

「ねえリイン。・・この2匹の事知ってる？」

「いえ、私も初めて見る種類ですね。・・」

二人で話している中2匹は僕の周りをグルグル走っている

「（リインの近くに居たってことは、この子達も僕が願った新しい家族なのかな? ・・それなら）」

「何か名前をつけよう。呼び名がないのはかわいそうだからね」

「それは主にお任せします」

考えている中、2匹のドラゴンは小首を傾げてじーっとこっちを見ていた。・・・かわいいなあ

「それじゃあ、白いのが『スター』金色の方が『ギル』でどうかな」

「くきゅっ〜」

「くくっ〜」

「ちょ、なめないでよくすぐつたいよ」

どうやら気に入ってくれたみたいだ

「それじゃあ、帰ろう！」

「はい」

「きゅっ〜」

「くくっ〜」

リインを首にかける。ギルは僕の頭の上に、スターは僕の右肩に乗った。

お父さん、お母さんこの日、僕に新しい家族ができました！！

## プロローグ（後書き）

初めましての人、知っている人も、改めましてサーシエスと申します。

このたびリリカルなのはvividの作品を書かせてもらいます。

3人の主人公が繰り広げる笑いアリ涙ありときどき変態な青春物語  
！！

感想などありましたらよろしく願います

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2697y/>

---

魔法少女リリカルなのはViVid 銀河の風と蒼紅の修羅（仮）

2011年11月6日04時15分発行